

あいさつ



低炭素杯実行委員長

小宮山 宏

皆さん！本日は「低炭素杯 2017」のファイナルステージに、ようこそお越しくださいました。
低炭素杯・実行委員長の小宮山 宏です。

2011年に産声をあげた「低炭素杯」も、今回で7回目の開催を迎えました。

昨年、日本はパリ協定を締結しました。パリ協定は、2015年12月のCOP21で採択され、その後、米中、インド、EUなど、既定数の55か国以上が批准し、発効に至りました。パリ協定が発効された今、一人一人が現状を再認識し、行動を起こす時だと思えます。

その世界の削減目標に貢献していくにたる取り組みが、今、この瞬間にも日本各地で展開されています。学生、企業、自治体、そして地域の皆さんなど、今年は26団体が、この晴れの舞台に集結しています。

ここに集う皆さんは、地球環境や温暖化の現状などに、常にアンテナを張っている方達ばかりだと思います。単に、自らの取り組みを発信するばかりではなく、集まった仲間たちの取り組みなどにも関心を持ち、皆さん同士対話し、学び、より深い関係を構築していきましょう。

どんなに小さな第一歩であっても、そのチカラが集結すれば、地球規模での温暖化防止に役立っていくことも夢ではないと、私は考えます。

今回、ここに集う皆さん、そして「低炭素杯 2017」を応援してくれる力強い仲間として、「さかなクン」にアンバサダー役をお願いしました。

まずは、その「さかなクン」のコメントから、「低炭素杯 2017」をスタートしていきましょう。

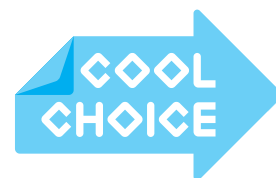
2017年2月16日





環境副大臣

関 芳弘



未来のために、いま選ぼう。

環境副大臣の関 芳弘でございます。

「低炭素杯2017」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011年の初開催から数えて7回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国951もの団体からの参加をいただきました。

本日は、26の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

皆様御存知の通り、昨年、日本はパリ協定を締結いたしました。我が国としても、2030年度26%の温室効果ガス削減を実現するため、着実に地球温暖化対策に取り組んでいかなければなりません。

そのためには、国民お一人お一人に、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解していただいた上で、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「ライフスタイル」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけていただき、地球温暖化対策を一層進めていただく必要があります。

本日、この場に集われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地域の皆様に地球温暖化対策の取組の自発的な行動を促していただき、地球温暖化防止活動の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた実行委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2017年2月16日



文部科学省大臣官房審議官

神山 修

低炭素杯2017表彰式の開催にあたりまして、文部科学省を代表して、一言御挨拶いたします。

本日、各賞を受賞された皆様におかれましては、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において素晴らしい取組をされているものと承知しております。

改めて皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

文部科学省では、子供がその発達段階に応じて、環境の保全についての理解と関心を様々な機会に深めることができるよう、学校教育や社会教育において環境教育を推進しており、小・中・高等学校の現行学習指導要領において、社会や理科、技術・家庭科など関連の深い教科を中心に環境教育に関する内容の充実を図るとともに、太陽光発電設備など環境教育に活用するエコスクールの整備、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進等、環境教育の充実に取り組んでいるところです。

地球温暖化防止に関する活動を表彰する制度を通じ、全国の優れた取組のノウハウや情報を共有し、さらなる活動への連携や意欲を創出する場となっている「低炭素杯」は、大変素晴らしい取組だと思っております。この取組により、国民の環境保全に関する理解が一層深まり、各地域における地球温暖化防止活動が更なる発展を遂げることを期待しております。

結びに、低炭素杯2017の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめ、低炭素杯実行委員会委員の皆様、御協賛・御協力いただきました企業・団体の皆様、事務局の皆様に対し、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

2017年2月16日